

めあて

近代文芸でもある短歌・俳句・川柳を詠むことにより芸術性を高め、伝統文化に親しもうとする心情を育てる。

対象：クラス単位・学年単位

対象

小4

小5

小6

中1

中2

文 芸



授業の流れ（基本プラン）

1～2 時限（通常の授業時間）

あいさつ（講師紹介）

講 話

体 験

講 評

質 問

発 表

- ◆講 話◆ 短歌・俳句・川柳とは何か
短歌・俳句・川柳の作り方
《歴史的背景などについて話をし、身近なものであることに気づいてもらう》
- ◆体 験◆ 実際に、短歌・俳句・川柳を作ってみよう
《実際に作ることで魅力を感じさせる》
- ◆講 評◆ 作品の発表
- ◆質 問◆ 体験したことでの疑問、知りたいこと等を質問してみましょう
- ◆発 表◆ ジュニア芸術祭に出品してみよう

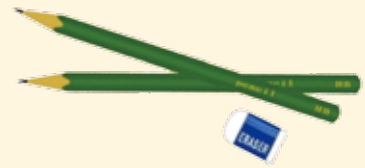


講 話

短歌とは・・・
韻文である和歌の一形式で五・七・五・七・七
の五句体の歌体のことです。



体 験



俳句とは・・・
五・七・五の音からなる「世界最短の日本語の
定型詩」とされ、十七文字、十七音、十七語と
も呼ばれます。

講 評

川柳とは・・・
五・七・五の音を持つ日本語の詩の1つです。



☆実施校からの声☆

- ・有名な俳人の句を紹介することで、日本の文化に興味を持つことが出来た。俳句作りでは、「言葉で写生する」「自分で感じたことを素直に表現する」など難しく考えずに、感じたことをそのまま表現するということを指導していただき、子供たちは俳句作りに抵抗なく入れた。
- ・短歌は、校庭に出て題材を探しに歩き、五感を使って感じ取ったものから作品を作って行き、五・七・五・七・七のリズムに合わせて、一生懸命取り組んでいました。